

# 平成 27 年度 事業計画の概要

公益財団法人仙台市市民文化事業団

## 平成 27 年度事業の実施方針

- ・東日本大震災から 4 年が経過し、仙台市の震災復興 5 か年計画においては最終年度となるなか、文化芸術面での鑑賞機会や学習機会を幅広く経常的に提供していくことはもとより、震災の記憶を後世に残す事業、地域住民の心の拠り所となる事業、被災した人に寄り添う事業についても、引き続き取り組む。
- ・次年度の財団設立 30 周年をひとつの大きな節目にとらえ、「指定管理者制度」や「劇場法」などの重要なテーマを踏まえながら、既存事業の点検・総括、新規事業の開発・試行に努め、各施設とりわけ「劇場」の一層のにぎわいを高めていく。また、地域文化を担う人材との連携を推し進め、30 周年記念事業の準備を進めるとともに、さらに全国的・世界的な社会情勢の変化も視野に入れながら、社会ニーズに沿った得色ある事業ラインナップを構築する。
- ・仙台市の文化振興施策と緊密に連携し、外部資金導入の拡充を進めながら事業体系を充実させていくとともに、職員の意識や資質の向上を図り、公益財団法人として健全かつ適切な組織運営を継続する。

## 平成 27 年度事業の概要（経費／単位千円）

### （1）支援、協働、人材育成事業

芸術表現や事業制作、学習など、市民自ら行う文化活動に対して、安全・快適で使い易い文化施設の提供をはじめとし、生涯学習の支援、広報活動の支援、事業費の一部助成、助言や協働、表現者や制作者の育成事業などを行う。

併せて、当事業実施の過程で、当事業団が自主事業を企画・実施する際に必要となる地域文化情報の把握や人的ネットワークづくり、文化的コミュニティ醸成に努める。

#### ア. 施設の貸出・維持管理運営及び利用者への支援・協力

- ・仙台市青年文化センター 管理運営（357,589）/No. 131
- ・泉文化創造センター管理運営（130,197）/No. 132 ※(株)東北共立、(株)石井ビル管理とのグループ
- ・仙台市歴史民俗資料館 管理運営（64,198）/No. 82
- ・富沢遺跡保存館 管理運営（79,609）/No. 92
- ・仙台市縄文の森広場 管理運営（42,925）/No. 105
- ・仙台文学館 管理運営（176,500）/No. 121
- ・せんだいメディアテーク 管理運営（591,897）/No. 133
- ・せんだい演劇工房 10-BOX 管理運営（26,217）/No. 65

#### イ. 市民企画事業への広報支援・助成・協働

- ・支援・助成・協力事業（20,868）/No. 41

#### ウ. ボランティア、地域、教育機関等との協働

- ・イズミティ 21 市民協働ロビーイベント (511) /No. 11②
- ・仙台国際音楽コンクールボランティア運営 (2, 901) /No. 61
- ・各ミュージアムボランティア運営 /No. 98 ほか
- ・各ミュージアム 教育/地域との連携事業 /学校・地域連携促進事業 /No. 73 ほか

## エ. 人材育成

- ・10-BOX 夏の学校 (2, 209) /No. 30
- ・せんだい短編戯曲賞 (1, 715) /No. 34
- ・仙台ジュニアオーケストラ運営 (23, 727) /No. 64
- ・公共ホール現代ダンス活性化事業 (991) / No. 50

### 【せんだい短編戯曲賞】

舞台芸術に関する人材育成等を目的として、平成 24 年度に創設した「せんだい短編戯曲賞」の第 3 回大賞作品を決定する(募集は前年度中)。大賞作品はリーディング(朗読)形式で上演されるほか、最終候補作品は冊子にして刊行・出版する。

### 【公共ホール現代ダンス活性化事業】

(一財) 地域創造に登録のコンテンポラリーダンサーを迎え、1 週間程度の滞在中にアウトリーチと公募のワークショップを行い、公演で締めくくる一連の事業。ダンスを通して自己表現力やコミュニケーション能力を高めるほか、鑑賞層の掘り起こしを図る。

## (2) 普及、啓発事業

主に文化芸術の鑑賞層を対象とし、芸術や文化全般の魅力を広く普及していくための事業を幅広く展開し、アーティストや制作者を支える観客・スポンサーやサポーターの裾野を広げる。

当事業団ならではの特色ある公演や企画展、文化講座や体験ワークショップ、教育・福祉・まちづくりの現場に「芸術の力」を届けるアウトリーチ事業、文化情報誌の編集・発行やホームページ運営などの広報事業、イベント鑑賞友の会の運営などを行い、前掲(1)の市民文化活動支援と併せ双方で事業を展開することにより、地域文化の総合的な底上げを図る。

## ア. 鑑賞公演

- ・仙台クラシックフェスティバル 2015 (70, 000) /No. 2
- ・10-BOX セレクション (4, 970) /No. 29
- ・市制施行 126 周年記念コンサート (4, 320) /No. 66
- ・れきみん秋祭り (2, 692) /No. 12
- ・ライブ文学館 (2, 400) /No. 25
- ・宝塚歌劇仙台公演 (27, 356) /No. 1
- ・新春いずみ寄席 (3, 100) /No. 5
- ・こまつ座公演「國語元年」(7, 657) / No. 3
- ・劇場・音楽堂等活性化事業【小中学校オーケストラ鑑賞会、東北タップフェス・プレ等】(106, 609) /No. 9
- ・古典芸能【仙台青葉能、文楽公演、能-BOX 経常事業、市民能楽講座等】(5, 871) /No. 6、31、36

## イ. 展示事業

- ・歴史民俗資料館 特別展「近代交通と仙台」(2, 149) /No. 84
- ・富沢遺跡保存館 特別企画展「旧石器時代の生活」(仮) (2, 329) /No. 94
- ・仙台文学館 特別展「北杜夫-どくとるマンボウの生涯」(4, 273) /No. 123
- ・歴史民俗資料館 企画展 (1, 960) /No. 85、86
- ・富沢遺跡保存館 企画展 (191) /No. 95~97

- ・縄文の森広場 企画展 (45) /No. 107
- ・仙台文学館 特別展・企画展 (6,805) /No. 124~128

#### ウ. 講座・ワークショップ等

- ・各ミュージアムでの講座・ゼミナール・ワークショップ /No. 87、98 ほか
- ・バロック音楽&バロックダンス ワークショップとコンサート (508) /No. 10⑥
- ・イズミティ 21 ホール見学会 (310) /No. 11③
- ・となりの子育てワークショップ (1,000) /No. 45

#### エ. アウトリーチ

- ・アーティストマネジメント事業 (1,510) /No. 50
- ・仙台市震災復興のための芸術家派遣事業 (0) /No. 48 ※実行委員会に加わり事務局を運営

#### オ. 文化芸術情報の提供・広報

- ・広報事業 (5,265) /No. 54
- ・事業団友の会運営 (3,395) /No. 55

### 【仙台クラシックフェスティバル 2015】

入場料 1,000 円~2,000 円の 86 公演に加え、地下鉄駅コンサート、街なかでの無料コンサート、病院などへ出演者が出向く「出張せんくら」を開催。10 回目を迎える今回は、出演者や演奏曲目のリクエストを募るなど、これまで支えてくれた市民の声に応えるとともに、合唱、ワークショップ等参加型の公演を増やし、聴衆と出演者がともに 10 周年を祝う。

### 【宝塚歌劇星組全国ツアー仙台公演】

時代を超えて人々に愛され続ける宝塚歌劇団の、東北の拠点となる仙台公演を 2 日間 4 ステージで実施する。出演：星組 北翔海莉 (ほくしょうかいり)、妃海風 (ひなみふう)

### 【仙台文学館特別展「北杜夫—どくとるマンボウの生涯」】

東北大学医学部在学中の約 5 年間で仙台で過ごし、小説にも往時の体験を記すなど仙台との縁が深い作家 北杜夫の生涯と作品の味わいを、関係者をはじめ世田谷文学館、斎藤茂吉記念館、日本近代文学館などの協力を得、豊富な自筆資料からたどる。

## (3) 交流、創造、発信事業

仙台圏と他の地域の人材が交流し、共通認識を持って協働していくと共に、長期的継続も視野に入れながら、作品や事業を作りあげ、広く社会に成果を発信していく。

参加者・関係者・観客などの立場で事業に関わり触発された若い人材が、年月を経て指導者やプロデューサーとなり、次の若い人材を励まし育てていくような世代循環の流れも重視しながら、地域文化リーダーの育成やコンテンツの創造、都市間交流、都市ブランドの醸成など、さまざまな成果を期待し、市民協働・プロデュース型事業を推進する。

#### ア. 顕彰制度・コンクール等

- ・仙台国際音楽コンクール事業 (76,165) /No. 57~63
- ・高校演劇東北地区大会 (200) /No. 38
- ・(再掲) せんだい短編戯曲賞 /No. 34
- ・ことばの祭典—短歌・俳句・川柳への集い (549) /No. 71
- ・土井晩翠顕彰会の支援 (晩翠わかば賞・晩翠あおば賞) (0) /No. 77

#### イ. プロデュース公演・企画公演・展示事業

- ・(再掲) 劇場・音楽堂等活性化事業【東北タップフェス・プレ、小池博史ブリッジプロジェクト等】/No. 9
- ・(再掲) 仙台クラシックフェスティバル 2015 /No. 2

- ・全国シニア演劇大会 in 仙台 (2,500) / No. 33
- ・オペラ「遠い帆」2014年公演映像上映会 (1,000) /No. 7
- ・メディアテーク「対話の可能性～対話のための発信事業」(17,000) /No. 73
- ・市民参画 野外展示「池」環境回復事業 (718) / No. 19
- ・亜炭香古学～足元の仙台を掘りおこす (6,920) /No. 42
- ・RE：プロジェクト事業 (1,742) /No. 47
- ・モノと暮らす (1,454) /No. 43

#### ウ. グッズ製作・出版

- ・ミュージアムグッズ開発・販売 (1,553) /No. 41
- ・仙台文学館選書『スズキヘキ詩集』出版 (650) / No. 51

#### 【亜炭香古学～足元の仙台を掘りおこす】

市民とアーティストが協働で「亜炭/埋もれ木」を切り口に、市域の記憶を掘り起し、記録を作品化するとともに、市民共有材として広く情報発信をする事業。平成24年度から継続しており、当年度はまとめの年として、これまでの成果発表展覧会を開催する。

#### 【RE:プロジェクト】

東日本大震災で大きな被害を受けた仙台市沿岸部を中心に、震災によって失われてしまうかもしれない地域文化を様々な形で伝える事業として平成23年度から継続の事業。当年度は記録集の発行や記録展の開催をし、当事業のまとめと締めくくりを行う。

#### 【対話の可能性 対話のための発信事業 展覧会「畏敬のかたち」】

市民力育成を目指し、広い対話を誘発するメディアテークからの投げかけとなる事業として平成25年度から継続してきた「対話の可能性」事業のまとめの展覧会を行う。かたちを持たない民話を題材にした、美術や漫画などの現代のさまざまなアーティストによる造形的な表現を通して、現代アートが地域文化の本質を現代に伝えるメディアとなり得ることを広く市民とともに確認する。

### (4) 総合、その他

文化芸術における分野ごとの調査や研究、ミュージアム常設展などを支える資料収集と保存、財団全体の事業進行管理・調整・評価・内部研修など、事業全体の成果向上のため必要となる総合的な事業を行う。また、震災の記憶を風化させないための記録プロジェクトを継続する。

#### ア. 調査・研究

- ・歴史民俗調査研究・報告 (801) /No. 90
- ・考古学調査研究・報告の刊行 (190) /No. 99
- ・地底の森ミュージアム遺構分析調査 (345) /No. 102
- ・縄文のまつり調査研究事業 (1,200) /No. 23

#### イ. 資料収集・保存

- ・歴史民俗資料収集 (1,753) /No. 89
- ・文学資料収集・保管 (9,564) /No. 129
- ・メディアテークライブラリー運営等 (10,169) /No. 134
- ・地域文化アーカイブ (1,500) /No. 80②
- ・震災の記録 市民協働アーカイブ事業 (15,651) /No. 68

#### ウ. 内部評価・制作管理・職員研修他

- ・管理運営施設(全施設対象)利用者アンケート、職員研修 /No. 56

# 公益財団法人仙台市市民文化事業団 平成27年度 事業計画書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位;千円)

## (1) 芸術文化振興事業

### ① 公演事業

1	<b>宝塚歌劇星組全国ツアー—仙台公演</b>	6/20～21	イズミティ21	27,356	38,356	入場料 37,662 広告料 350 その他 344
	仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を実施。2日間・4ステージで第1部ミュージカル『大海賊』—復讐のカリブ海、第2部レビュー『Amourそれは…』を上演する。出演者: 星組 北翔海莉(ほくしょうかいり)、妃海風(ひなみふう) 他					入場者: のべ5,500人
2	<b>仙台クラシックフェスティバル2015 (10周年記念公演)</b>	10/2～10/4	日立システムズホール仙台 他	76,930	69,930	市負担金 23,000 入場料等 38,230 協賛金 8,700
	平成18年度に事業団創立20周年記念事業として創設し、10回目を迎える今回は、基本コンセプトは変わらないが、出演者や演奏曲目のリクエストを募るなど、これまで支えてくれた市民の声に応えるとともに、合唱、ワークショップ等参加型の公演を増やし、聴衆と出演者がともに10周年を祝う場とする。 ・ホール公演は、45分～60分の公演時間、チケットは1,000円～2,000円という手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらう。地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として3日間で86の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートのしご鑑賞を推奨する。 ・地下鉄駅コンサート、街なかコンサート、病院などに出演者が外向き演奏する「出張せんくら」を設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとする。					入場者: のべ33,000人
3	<b>こまつ座公演「國語元年」</b>	10/8	イズミティ21	7,657	6,261	入場料 4,290 助成金 1,971
	「劇都」仙台の文化振興策として、ハイレベルな演劇鑑賞機会を市民に安定して継続的に提供することを目的に2009年から実施。文学館初代館長井上ひさしの作品を専門に制作しているこまつ座の舞台を上演する。今回は出演に元タカラジェンヌの朝海ひかる他。演出: 栗山民也。					
4	<b>もりのみやこのふれあいコンサート</b>	12/8	イズミティ21	3,764	3,764	市補助金 3,764
	障害のある方とご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催しているコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場者数が増えている。事前申込制・無料。仙台市及び仙台フィルと共催。					入場者: 1,100人
5	<b>新春いずみ寄席</b>	1/11	イズミティ21	3,100	2,775	入場料 2,775
	新春の看板事業として春風亭小朝師匠を招いて落語寄席を実施する。13時～、16時～の1日2回公演を行う。					入場者: のべ750人
6	<b>共催事業</b>	通年	日立システムズホール仙台他	2,300	0	
	放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催する。継続実施している仙台青葉能、文楽公演(負担金各500千円)と小山実稚恵「音の旅」(負担金無し、年2回)、TAP DANCE ART PROJECT in Sendai～Tap the FUTURE～の通年ワークショップ(負担金なし)に加え、当年度はプラハ国立歌劇場のヴェルディ「椿姫」、スペイン国立バレエ団2015年公演、明治座「かたき同志」、中丸三千繪ソプラノ・リサイタル(いずれも負担金なし)等を共催する。					
7	<b>オペラ「遠い帆」2014年公演映像上映会</b>	7月	エル・パーク仙台他	1,000	0	
	仙台市が7月に開催する慶長遣欧使節出帆400年イタリア記念イベントのひとつとして、仙台市委嘱によるオペラ「遠い帆」(作曲: 三善晃・脚本: 高橋睦郎)の2014年公演映像上映会をエルパーク仙台にて開催。併せて石巻市でも上映し、作品への理解、継承につなげていく。また、今後の事業展開のため調査・準備を行う。					入場者: のべ400人
8	<b>市民文化事業団創立30周年記念事業準備</b>	通年	—	5,000	0	
	平成28年度に創立30周年記念事業を実施するための調査や準備を行う。					

②ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施する。

9	劇場・音楽堂等活性化事業 (青年文化センター文化庁補助事業)	通年	日立システムズホール仙台	106,609	106,609	入場料等 16,030 市負担金 45,400 文化庁補助 43,951 広告料 600
<p>クラシック専用ホールを擁し地域の音楽文化を支えてきた日立システムズホール仙台からの発信事業。文化庁の補助を受け、仙台市、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催。主な内容は以下の通り。</p> <p>①<b>青少年のためのオーケストラ鑑賞会(7月、10月)</b>:市内小中学校約220校を音楽専用ホールに招く本格的なオーケストラ・コンサートの鑑賞会(全14回)。</p> <p>②<b>《名曲のちから》「オーケストラ・スタンダード 全4回」(6月～2月)</b>:平成23年度からの継続企画。クラシック音楽の鑑賞中級者に向け、オーケストラ作品の名曲をリーズナブルな入場料で提供するシリーズコンサート。当年度は、主催公演での来場者アンケートによる要望を折り返みながら、各回ごと全曲同一作曲家による「名曲」プログラムで実施する。</p> <p>③<b>レクチャーコンサート「バレエ音楽史」(3月)</b>:「オーケストラ・スタンダード」の特別編。時代とともに変化していくバレエ音楽の変遷をテーマに、バレエの実演を交えながら舞台を構成する演奏会。</p> <p>④<b>おとなのためのクラシック教室&amp;入門コンサート(9月)</b>:「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」のおとな版。クラシック音楽初心者に向けての、平日昼間開催・解説付きの本格的なオーケストラ・コンサート。</p> <p>⑤<b>東北タップダンス・フェスティバル(プレ・セッション)(9月)</b>:仙台出身の世界的タップダンサー熊谷和徳を中心に平成28年度開催予定としている東北タップ・フェスティバルのプレ企画。公演の主軸は、熊谷和徳及び国内外で活躍する複数のタップダンサーと、仙台フィルハーモニー管弦楽団のメンバーを中心とした特別編成オーケストラとの協演。併せてワークショップも実施。</p> <p>⑥<b>小池博史ブリックプロジェクト「注文の多い料理点」(WS&amp;公演)(12月～1月)</b>:小池博史作・演出による宮沢賢治作品をモチーフにした総合舞台芸術作品「注文の多い料理店」の公演とワークショップ。</p>						
10	青年文化センター活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	4,660	844	参加費等 594 その他 250
<p>ホール施設等の利用促進に向けての活性化事業と併せて、青少年の育成事業、及び地域連携事業などを次のとおり行う。</p> <p>①<b>「子どもの夢ひろば“ポレロ”～つながる・集まる・羽ばたく～」(8月)</b>:仙台市出身の著名アーティストによる記念企画とタイアップし、総合的な施設紹介も目的として実施する事業。子ども向けのコンサートの他、創作クッキーづくりなど様々な体験型コンテンツもある内容で、全館を使って実施。</p> <p>②<b>ガス局共催料理教室(7月、11月、2月)</b>:市ガス局と共催し、時節に合わせて年3回の料理教室を開催する。当年度は対象を拡大する企画(例:男性、健康志向者対象など)も盛り込む。</p> <p>③<b>インド舞踊(9月)</b>:インド政府と共催し、インドの優れた舞踊、文化を紹介することで、異文化交流、理解を深め、前年に続く震災復興支援の一助とする。</p> <p>④<b>クリスマスコンサート(12月)</b>:クリスマスをテーマにした耳馴染みのあるプログラムでの室内楽コンサート。単なる鑑賞型公演にとどまらず、地域及び地元色を入れた内容で実施する。</p> <p>⑤<b>ギャラリー企画(時期未定)</b>:3階ギャラリーの活性化と地域連携を目的とし、当年度は地元町内会との連携により、「旭ヶ丘地区」に限定した写真を募集し展示会等を開催する。</p> <p>⑥<b>バロック音楽&amp;バロックダンス ワークショップ&amp;コンサート(11月)</b>:楽都仙台の中心施設にふさわしい企画として、次代を担う地域の青少年を中心に、音楽への関心と理解が深められる古典音楽を取り上げ、古典舞踊のワークショップとコンサートを交流ホールで実施。</p> <p>⑦<b>ホール見学会調査</b>:当年度は、最適な実施時期がシアターホールの大規模改修と重なるため、平成28年度からの新装立ち上げを見据え、調査及び研究を行う。</p> <p>⑧<b>地域連携事業(11月)</b>:旭丘小学校の課外授業である「旭ヶ丘森がっこファーム収穫祭」を中心に、旭ヶ丘市民センター、近隣町内会など諸機関との連携協働を深めながら、地域子どもたちを対象にワークショップなどを実施する。</p> <p>⑨<b>年央・調査</b>:年央でしか成し得ない事業を年に数本程度実施する。</p> <p>⑩<b>コピーサービス事業</b>:施設利用者用のサービスを継続して実施する。</p>						⑩は収益事業
11	イズミティ21 活性化事業	通年	イズミティ21	892	10	販売手数料 10
<p>指定管理者応募の提案事項を中心に次の事業を行う。</p> <p>①<b>泉中央地区プレイガイド事業(通年)</b>:利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、イズミティ21を会場に実施される催し物の入場券を販売する。また、仙台市市民文化事業団主催のチケットも併せて取り扱い、仙台クラシックフェスティバルのチケットについては専用端末を用いてチケットを販売する。</p> <p>②<b>市民協働ロビーイベント(年3回)</b>:施設のカラーづくりとして普段直接観る機会の少ないジャンルを取り上げ、広く市民に紹介し、会館全体の活性化を図る。ホールの保守点検日に使用せずに空いているホールロビーを活用し、地域を拠点に活動する団体との協働で事業を実施する。イズミティ21を利用してイベントを実施する団体のプレイイベント(事前PRイベント)としても活用する。</p> <p>③<b>ホール見学会(8月上旬 1日2回公演)</b>:普段目にする機会の少ない大ホールのバックステージを中心に、音響・照明等の機材の操作体験を行う参加型の見学会を実施する。小学生を対象にして夏休みに開催し、親子で楽しみながら舞台に興味を持ってもらう内容とする。</p> <p>④<b>ピアノ弾き込みボランティア(年3回程度)</b>:大ホールのスタインウェイ社製コンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアの協力によりピアノ弾き込みを実施する。</p> <p>⑤<b>市民ギャラリー・エントランスロビー展示(ギャラリー/1回1週間程度、ロビー/通年)</b>:泉区の拠点館として、泉の文化・自然等を紹介する写真展、パネル展を泉区まちづくり推進課等と関連のある地域の団体との協働で実施する。また、館内の有料スペース以外の活性化のために、エントランスロビー等において時節に合わせた小規模な展示等を併せて実施する。</p>						①は収益事業

### ③ミュージアム活性化事業

ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図る。

12	れきみん秋祭り	10/24、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	2,692	50	刊行物販売 50
	歴史民俗資料館と10-BOXが共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の10回目。「お神楽」・「田植踊」・「鹿踊」・「剣舞」などの伝統芸能の競演と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手業の披露、併せてジャグリングやコマ回しなど、大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントとして開催。					参加者:7,000人
13	猿舞座のさるまわし	6月中	榴岡公園 歴史民俗資料館	30	0	
	榴岡公園を会場として山口県岩国市に拠点を置き、全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の7回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気です。					参加者:800人
14	朗読公演 「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」	8/9	歴史民俗資料館	30	0	
	朗読「リラの会」による「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」の3回目の公演。終戦記念日に近い日程で常設展示「農家の台所コーナー」において上演し、仙台空襲をより身近に、効果的に観覧者に伝える。					参加者:50人
15	朗読公演 「あの日、あの時、私の記憶」	3/5	歴史民俗資料館	30	0	
	朗読「リラの会」により、2011年3月11日の体験記『東日本大震災の体験文集Ⅱ』をもとに構成された朗読作品を、効果的な音響と照明のもとで上演する。					参加者:50人 新規
16	smt資源活用シリーズ	通年	メディアテーク	500	0	
	市民が推薦し合う映画紹介イベント「シネバトル」を開催する。2階映像音響ライブラリーとシアターの連動を図る活用モデル事業。映画文化の活性化、利用者間の交流を通じ、「our library & theatre (我らがライブラリー&シアター)」という意識をもつ利用者を育てる。年4回開催(最終回はグランドチャンピオン大会、その後には上映会を開催)。					
17	活版印刷ワークショップ事業	通年	メディアテーク	100	0	
	メディアテークに寄贈された活版印刷機を使用可能な状態で保存し、デジタル製版主流の現在においてオールドメディアとしての活版印刷の技と術を継承し次代に伝えるとともに、貴重な活版の道具類のミニ展示も行う。					
18	体験教室「親子でつろう古代米」	5月～11月	富沢遺跡保存館他	588	130	古代米販売 100 参加料 30
	富沢遺跡保存館に隣接する水田で古代米の栽培を行う。親子での協働作業を通じて、古代の歴史を体感するとともに、地域の歴史的な絆や親子の絆の深さを知る機会とする。また、地域と連携して事業を展開し、富沢遺跡保存館が地域活性化の拠点となることを目指す。当年度は、田植えから収穫まで計5回の活動日とし、歴史民俗資料館との連携も行いながら事業を行う。					
19	市民参画 野外展示「池」環境回復	5月～10月	富沢遺跡保存館	718	18	参加料 18
	野外展示「氷河期の森」の池の環境回復活動(清掃およびザリガニ駆除など)を通して、他の参加者と連帯し、いのちを大切に、「氷河期の森」および仙台の自然を守っていくことを意欲を育てる。「氷河期の森」を核として、環境活動を将来にわたってどう行っていくか、主体的・計画的に考える基礎づくりを行い、環境復元(展示)と環境回復(保全)を軸としたブランド化を図る。					新規
20	ミュージアムフォトコンテスト 「氷河期の森・縄文の森の風景2015」	通年	富沢遺跡保存館他	290	0	
	都市化が進む太白区長町～山田地区にとって、富沢遺跡保存館・縄文の森広場の野外展示は貴重な緑地として地域住民に親しまれているが、より多くの市民に両館の野外展示について知っていただくことを目的として、その魅力を1枚の写真で表現してもらい、コンテストを行う。作品は広く一般から募集する。					
21	ミュージアム・シアター「狩人登場」	7月～9月	富沢遺跡保存館	800	0	
	市内を中心に演劇等の表現活動をする身体表現ユニット「短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代および先史時代の狩人が登場するイベントを行う。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、知識としての理解や考古学の知的興奮に加え、当館の非日常的な空間を生かした特別な経験を提供することを目指す。					新規
22	冬キラ☆今日の主役は氷河期の森	12月	富沢遺跡保存館	500	0	
	地域のイベントとしての定着と、地域の方々の参加しやすいかたちで「氷河期の森」の価値の共有や保全への共感を得ることを目的とする。当年度も学生へ参画を呼びかけ、「氷河期の森」の活用を図る。					新規

23	縄文祭復元事業	通年	縄文の森広場	1,200	0	
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、まつりの復元を目指して調査研究活動を行い、その成果を市民に公開する。前年度に引き続き、縄文の音や民俗事例に関する調査を行うとともに、これまで復元製作してきた楽器を演奏する成果公開イベントを行う。音楽以外のまつり要素を調査するために、各地の先進事例調査も進めていく。全国に発信する当館の独自事業の一つと位置づける。					
24	学校・地域連携促進事業	通年	縄文の森広場	310	0	
	当館無料ゾーンにて、定期的にコンサートやイベントを開催する。出演者やイベント対応者は、地元の団体や近隣学校に協力を求め、より地域に根差した施設となることを目指す。イベントの多様化によって来館者数の増加が期待され、外部の多様な活動者の視点から施設を見直すことで、新たな魅力・特長の発見なども期待できる。春夏期は2～3か月に1回程度、秋冬期は1～2か月に1回程度実施予定。基本的な実施日(例:毎月第1土曜日)は決めておき、指定管理業務と重複しない日程で調整して行く。					
25	ライブ文学館	10/29	イズミティ21	2,400	1,400	入場料 1,400
	ホール、ギャラリーなどを会場に、朗読、音楽、映像、演劇などを交えて、文学作品をひとつのステージとして構成する催し。文学との出会いの場を広げ、「文学が息づく都市」仙台の新たなブランドを醸成する。					
26	仙台文学館まつり	8/22	仙台文学館	170	20	その他 20
	平成21年度に開催して大変好評であった「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続して開催。文学館に一層親しんでもらう企画とする。夏休みのことも文学館の時期に合わせ、子どもを視野に入れたステージやスタンブレーションを実施。秋以降の企画に繋げるような工夫も凝らす。					
27	アートと歴史のコラボレーション	未定	未定	700	0	
	歴史や伝統文化にアートの視点からアプローチし、その魅力をクローズアップする融合型事業。芸術・歴史両面での普及を図る。歴史系ミュージアムと事業課の連携事業。					
28	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	1,536	1,814	刊行物販売 1,394 その他 420
	ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特長や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行う。 ①富沢遺跡保存館グッズ:氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ(氷河期の森の仲間たち・氷河期の森標本シリーズ等)。編布グッズ(コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ)を販売。(支出86千円、収入124千円) ②縄文の森広場グッズ:縄文の森広場ボランティアスタッフによる手作りの勾玉など、商品の製作と開発。(支出200千円、収入200千円) ③仙台文学館グッズ:前年度までに制作し来館者の記念品として人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売する他、文学館の森をイメージしたグッズを追加制作する。また企画展に合わせて、内容にふさわしいグッズの仕入れ販売も行い、来館者のニーズに応える。(支出343千円、収入370千円) ④メディアテークグッズ:平成20年度制作木村浩一郎氏とのコラボレーション・グッズ、平成22年度制作の開館10周年記念グッズ、さらに平成25年度、平成26年度制作のカネイリとのオリジナルグッズの共同開発に続き、新たなオリジナルグッズを企画制作・販売し、商品の充実を図る。(支出600千円、収入620千円) ⑤歴史民俗資料館グッズ:昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図の継続販売と、新規復刻地図の制作販売。(支出307千円、収入500千円)					
<b>④劇都仙台2015事業</b> 都市文化を支える芸術として演劇の総合性と公益性に着目し、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑥の体系に基づき実施する。 ①クリエイターの育成 ②活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ③教育や福祉など他ジャンルとの連携 ④良質な公演の機会の拡大 ⑤情報交流や協働 ⑥関連調査や研究など						
29	10-BOXセレクション	通年	演劇工房10-BOX他	4,970	3,970	市補助金 3,670 入場料 300
	優れた戯曲や良質な作品を広く市民に対して鑑賞の機会を提供するため、せんだい短編戯曲賞の大賞作品のリーディング公演や市内の劇場や飲食店等の劇場空間を活用して主催・共催等の演劇公演を行い、鑑賞層の拡大(創客)を図る。					
30	10-BOX夏の学校	7月～8月	演劇工房10-BOX メディアテーク	2,209	2,209	市補助金 1,071 助成金 1,000 受講料 138
	夏期学校のスタイルをとる人材育成プログラム。演劇の手法を用いて、創造・思考・表現を磨き、視野を広げる集中講座。 ①好奇心と創造のレッスン:広く一般を対象に、参加者が自分自身の中に潜む創造力と思考力を発見できることを狙いとした、造形、身体表現のワークショップを行う。 ②創作実験アトリエ:主に実績のある地元クリエイターを対象とした人材育成事業。「一般公開を前提とするクリエーション」と「非公開を前提とするトライアウト」の2つのアトリエを行う。					
31	市民能楽講座	7/18・25	能-BOX 日立システムズホール仙台	4,086	4,086	市負担金 2,350 入場料 1,736
	「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。今回は、喜多流の能公演(7/25)を日立システムズホール仙台(青年文化センター)シアターホールで、講座(7/18)を能-BOXで行う。					



32	地下鉄東西線開業イベント「仙台市 文化の力による心の復興事業」(仮)	12月予定	演劇工房10-BOX他	5,000	5,000	市負担金 5,000
	被災者に文化の側面から心の安らぎと明日への活力を感じてもらう機会を提供するため、地下鉄東西線開業に合わせ、卸町地区で舞台芸術公演を開催する。これまでの「劇都」等の取り組みの中で蓄積された人材やノウハウを最大限に生かす形で、演劇、能楽、音楽、ダンスなど、多分野の地元アーティストが関わる公演とする。					参加者:のべ500人 新規
33	全国シニア演劇大会in仙台	6/5~7	日立システムズホール仙台	2,500	0	
	シニア世代の生きがいとして、全国的にも演劇が注目されているなか、全国各地で活躍しているシニア劇団の全国大会が、平成23年度に東京、平成25年度に南アルプス市で隔年開催された。平成27年度の全国シニア演劇大会を仙台市、NPO法人シニア演劇ネットワーク(東京)と共催で開催。全国より7団体、仙台より2団体、計9団体が参加する。					入場者:1,000人 新規
34	劇都仙台登竜門事業(せんだい短編戯曲賞)	通年	演劇工房10-BOX 他	1,715	1,715	市補助金 1,715
	演劇の根底となる戯曲をつくる若手劇作家の活動にスポットをあてる「第三回せんだい短編戯曲賞」を開催。前年度に募集した作品から、選考委員(制作者)5名が大賞を選考する。最終候補作品(10作品程度)を冊子化し、併せて次年度の募集を行う。					
35	舞台スタッフ☆ラボ	1月~2月	演劇工房10-BOX他	702	702	市補助金 537 受講料 165
	舞台技術や演出効果の技術及び技能者を養成・育成することを目的に、初心者も参加できる内容で、演劇など舞台公演のための施設、またはそれに適した場で実践的な講座やワークショップを行う。					対象者:50人
36	能-BOX 経常事業	通年	能-BOX	731	731	市補助金 656 受講料 75
	能楽施設を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるため、「こどものための能講座」(能楽師:山中遊晶)、「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会主催)などを行う。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しも含め、利用者の開拓も図ってゆく。					対象者:70人
37	共通経費(事業間連携活動等)	通年	演劇工房10-BOX他	1,330	252	市補助金 101 刊行物販売 151
	ホームページの更新をはじめとする劇都仙台事業や宝塚公演事業、有償事業等の共通業務、また教育や福祉など他の専門組織との協働事業やせんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売を行う。					
38	演劇-社会アクセス事業	通年	演劇工房10-BOX他	350	150	県負担金 150
	教育や福祉現場での課題を、演劇へのアクセスが少ない潜在的なニーズととらえ、演劇のコミュニケーション能力を育む機能を応用したワークショップを行う。現場に必要な指導者(ファシリテーター)の育成やプログラムの研究開発、また課題を解決するためのワークショップも実施する。さらに教育現場での演劇の次代の担い手である高校演劇部に重点支援するため、高等学校演劇協議会と共催し、地区大会等を開催する。					対象者:100人
39	音声学ワークショップ	通年	演劇工房10-BOX 日立システムズホール仙台	0	0	
	磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ、専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者への指導も行う。3月下旬には1年間学んだ成果を披露する発表公演を行う。事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催。					対象者:70人
40	大衆紙芝居ネットワーク事業	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	当事業団が企画した「大衆紙芝居ワークショップ」の参加者による団体「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動(オリジナル作品の製作、上演、作品展など)に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力をを行う。					対象者:10人
<b>⑤市民文化事業への支援事業</b>						
41	支援・助成・協力事業	2回募集	—	20,868	20,024	市補助金 20,024
	市内で活動する団体・個人が行う芸術文化事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力をを行う。「支援事業」は、年4回発行の文化情報誌『季刊まちりょく』に市民企画事業の告知を掲載する広報サポート。「助成事業」は助成審査会による資金援助。「協力事業」では、特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設での各種協力などを行う。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋などの協力をを行う。					支援:約250件 助成:約160件 協力:約20件

## ⑥地域文化事業

市民が仙台・宮城の地域に愛着を深め、この地の文化にますます誇りを持てるよう、生活文化を中心に情報を発信していく事業。

42	亜炭香古学～足元の仙台を掘りおこす	通年	市内各所	6,920	4,020	参加料 120 助成金 3,650 刊行物販売 100 協賛金 150
アートによる地域資源再発見・活用事業として平成24年度から継続実施。市民とアーティストが協働で「亜炭／埋もれ木」を切り口に、地域の記憶を掘り起こし、記録を作品化するとともに、市民共有財として広く情報発信する。当時の証言録取や資料発掘から作品制作を通じて、高齢者の力を社会に活かすとともに、市民の芸術文化活動への参画機会を増やす。当年度は最終年度として、8/8～18にせんだいメディアテークにて、これまでの成果発表展覧会を実施する。						
43	モノと暮らす	通年	市内各所	1,454	0	
昭和3年に国立機関として設置された「工藝指導所」について、現在の仙台に残された軌跡を丁寧にたどりながら、今に受け継がれるモノづくりの精神やモノの見方などについて、企画展や連続セミナーの開催をとおして市民と共有し、「モノづくりの街・仙台」としての文化的な側面を認識する機会を創出する。また、現在の仙台におけるモノづくりの活動としてある「仙台・杜の都のクラフトフェア」において運営に関わる市民ボランティアのコーディネートを行うことで、市民がモノづくりを支える場面への参加機会を提供し、総合的な市民の文化力向上に努める。						

## ⑦創造都市推進事業

市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する。仙台市との共催事業。

44	仙台フォトコンテスト2015 ～地下鉄東西線*沿線風景	8月～2月	メディアテーク	1,522	1,522	市負担金 1,522
地下鉄東西線沿線の地域資源の再発見と市民が写真表現を楽しむことを目的とし、市民から写真を公募し展示する。2/5～10にメディアテークで写真展を、展示期間中に公開審査会と授賞式を行う。						
45	ワークショップ「となりの子育て」	6月～10月	エル・ソーラ仙台	1,000	1,000	市負担金 1,000
演劇の手法を用いて結婚・出産・子育てについて対話を重ねながら考えるワークショップ。進行役は演出家の生田恵氏。(公財)せんだい男女共同参画財団との共催により実施。						
46	地下鉄駅コンサート	9/26・27 10/3・4	地下鉄駅構内	918	918	市負担金 918
仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催する。						
47	RE:プロジェクト	通年	市内各所	1,742	1,742	市負担金 1,742
東日本大震災で大きな被害を受けた仙台市沿岸部を中心に、そこに暮らしてきた方々から地域に根付いてきた暮らしの話を聞き、地域の記憶をつなぐとともに、震災によって失われてしまうかもしれない地域文化をさまざまな形で伝える事業として平成23年度より継続実施。これまで取材してきた地域の5年目をまとめた記録集の発行や、地域住民とともに地域に根付いてきた食文化を伝えるイベント「オモイデゴハン」の実施、取材の様子を紹介する「記録展」を開催する。						

## ⑧育成・普及事業

主にアウトリーチの手法により、子どもや市民に芸術文化に触れる機会を広く提供する。

48	芸術家派遣事業	5月～2月	各学校・地域	0	0	
「仙台市芸術家派遣事業実行委員会」が文化庁から受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供する。前年度実績として166箇所へ166事業を派遣実施。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行う。実行委員会の予算規模は2,000万円程度を見込んでいる。またこの事業の効果を一層高めるために、仙台市の負担金により、アーティスト及びコーディネーターを対象とした研修事業や他都市事例の調査などを予定している。						
49	公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)	1月	10-BOX 他	991	280	入場料 240 受講料 40
(一財)地域創造の登録アーティスト・青木尚哉(ダンサー)を迎え、1週間の滞在の間にアウトリーチとワークショップを複数回行い、最後に公演を行う一連の事業。これまでダンスに関わりの少なかった市民への働きかけや社会課題へのアプローチ他、質の高いダンス公演を実施することにより、普及啓発と地域への貢献を図る。						
50	アーティストマネジメント事業	通年	各学校・地域	1,510	1,650	その他 1,650
子どもたちや地域住民等がアートと触れあう機会を、有償で提供するアーティスト派遣事業。提供先のニーズに合わせ、オーダーメイドでアーティストの選定・プログラム開発を行う。当年度は従来の近隣市町村の学校・公共施設・市内商店街等での実施を予定。						

## ⑨出版及び作品収集事業

事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与する。

51	仙台文学館選書『スズキヘキ詩集』	通年	—	650	259	刊行物販売 259
仙台の児童文化運動の草分け的存在でもある詩人、スズキヘキの詩作品を収録。雑誌や本に収録されているもののほか、未発表のメモや原稿などの作品も収め、巻末には年譜と解説を収録。文学館の選書として出版し後世の人々にその作品の魅力を伝えていくことを目的としている。						新規
52	『仙台戯曲賞シリーズ』販売	通年	—	0	43	刊行物販売 43
「仙台劇のまち戯曲賞」大賞受賞作品の上演機会を広げ「劇都仙台」を内外に発信することを目的に、「仙台戯曲賞シリーズ」01～04を窓口販売の他、webサイトからの申込みによる継続販売。販売価格は1,000円(税別)。販売作品『闇光る』、『ドドミノ』、『ミチユキ→キサラギ』、『はだか道』。						
53	市民文化事業団ブックレット『文化芸術の社会再生力』販売	通年	—	2	14	刊行物販売 14
事業団創立20周年事業記念連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力」における井上ひさし氏他による鼎談と平田オリザ氏による講演録を採録し、平成20年度末に出版したブックレットの継続販売。						

## ⑩広報事業等

54	広報事業	通年	—	5,265	5,070	市補助金 5,070
文化情報誌『季刊まちりよく』の発行(年4回)を継続。当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介していく。また紙媒体と連動し、速報力のあるホームページを運営(アクセス想定件数:年70,000件)するほか、報道機関等への情報提供を随時行う。						
55	市民文化事業団友の会運営	通年	—	3,395	1,500	友の会会費 1,500
市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続する。月刊情報誌『市民ぶんかレター』による当事業団事業他の広報、主催及び協力事業への先行サービスの提供等。年会費1,000円。						会員:約1,500人
56	事業団事業全体にかかる共通事務費	通年	—	4,085	0	
事業全体の調整、新事業の企画・開発、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務等の事務経費等。						

## (2)コンクール運営事業

### ①仙台国際音楽コンクール事業

平成28年に開催する第6回仙台国際音楽コンクールの準備を行う。

57	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	16,251	16,251	市負担金 16,251
コンクール事務局の運営を行う。						
58	委員会運営	通年	仙台市内・東京都内	2,438	2,438	市負担金 2,438
組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催する。						
59	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	10,726	10,726	市負担金 7,504 刊行物販売 26 その他 3,196
第6回コンクール開催の準備を進める。 第6回コンクール予備審査を行う。						
60	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	19,703	19,703	市負担金 19,703
第6回コンクール出場者募集及び開催告知に関する広報活動を行う。						
61	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	2,901	2,901	市負担金 2,601 入場料 300
第6回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行う。 ①ボランティアリーダー会議の開催 ②会場運営サポート:コンクール関連コンサート等の会場運営 ③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、ボランティアブログ運営等 ④出場者サポート:外国語等の勉強会、交流サロンの運営準備等 ⑤ホームステイ受入れ:意見交換会、受入れ準備等 ⑥ボランティアプロジェクトチーム:市民と入賞者の交流イベントの企画運営、市民参加型ボランティア研修の企画運営						

62	第5回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート	通年	東京都他	15,292	15,292	市負担金 12,131 入場料 2,105 その他 756
	第5回コンクール優勝者の副賞として、関連主催事業及び国内オーケストラの演奏会に出演する機会の提供を行う。					
63	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	市内各所	8,854	8,854	市負担金 8,354 入場料 500
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクール入賞者による「学校訪問ミニコンサート」を開催する。</li> <li>・コンクール入賞者と学生・市民オーケストラの共演の機会を設けることにより、音楽振興と交流を図る。</li> <li>・クラシック音楽鑑賞の普及とコンクールのPRを目的に、「街かどコンサートシリーズ」及び「SIMC@交流シリーズ」を開催する。</li> <li>・第6回コンクール中に開催する「審査委員によるマスタークラス」の受講生を募集・選出する。</li> </ul>					

### (3) ジュニアオーケストラ運営事業

64	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台 他	23,727	23,727	市負担金 15,285 受講料・入場料等 8,442
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管する。</li> <li>・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託する。</li> <li>・演奏会を2回開催する。</li> </ul>					団員定員:122人

### (4) 演劇系練習施設運営事業

65	せんたい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX (能-BOX)	26,217	26,217	市補助金 19,382 利用料等 6,835
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援していく。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えていく。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行う。					収益事業を含む

### (5) 芸術文化受託事業

(単位;千円)

66	市制施行126周年記念コンサート	7/6	イズミティ21	4,320	4,320	市受託料 4,320
	仙台市の市制施行記念式典の一環として開催される仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。ソリストには、第5回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第5位の片田愛理さんを迎える。					
67	アート事業・人材育成事業調査	通年	メディアテーク	5,166	5,166	市受託料 5,166
	文化・芸術活動の創造性により、若い世代の活力を引き出し、まちの新たな魅力を作り出すことで仙台及び東北の復興を図るため、メディアテークを核とした人材育成事業及び国際的・先進的なアート事業の新規開催に向け、その方向性等の検討を行うとともに、調査過程を通して、これらに関する市民意識の涵養を図る。					
68	震災の記録・市民協働アーカイブ事業	通年	メディアテーク	15,651	15,651	市受託料 15,651
	大震災を受け、復旧・復興に向かう仙台のまち・ひと・動きを、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、市民共有の財産として保存する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の運営。具体的には、①震災以降の仙台地域の状況を写真や映像で記録する。②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管する。③収集した資料を一部選別し、ウェブサイトを通じ配信する。					
69	震災メモリアル・市民協働プロジェクト 「伝える学校」事業コーディネート・支援業務	通年	——	150	150	市受託料 150
	仙台市市民局市民協働推進課がNPO等と協働し実施する事業「伝える学校」への制作支援を行う。「RE:プロジェクト」との関連部分も含め、仙台市が進める震災復興事業全体の、文化面での成果向上を図る。					

2.定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位;千円)

①仙台文学館普及啓発事業

70	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	781	781	市補助金 454 受講料 126 販売手数料 201
	特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えていく。 ①特別展「北杜夫ーどくとるマンボウの生涯」関連:館長小池光とエッセイスト・北杜夫長女である斎藤由香氏との対談、北杜夫担当編集者だった宮田穂栄氏や、日本文学研究の第一人者である石原千秋氏(早稲田大学教授)による講演会、地元演劇人による「どくとるマンボウ」シリーズを読む展示室劇場などを開催する。 ②「こども文学館 えほんのひろば」関連:市内で活動するグループによるお話し会や、読み聞かせワークショップ、絵手紙教室を開催する。 ③特別展「竹久夢二の世界(仮)」関連:関係者による講演会、詩の朗読イベントなどを開催する。 ④企画展「仙台の出版文化(仮)」関連:地元作家と編集者による対談や講座などを開催する。 ⑤企画展「井上ひさし資料特集展Vol.5」関連:展示室内でのリーディングイベント、読書会などを実施する。					
71	ことばの祭典ー短歌・俳句・川柳への誘い	6/27	仙台文学館	549	549	市補助金 549
	短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」を選ぶ。					
72	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,404	2,404	受講料 2,404
	文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどを実施し、文学の振興を図る。 ①小池光短歌講座:館長の歌人・小池光による短歌の鑑賞と実作指導の連続講座。通年で10回の開催を予定。 ②仙台文学館ゼミナール:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ5回連続で開催する。 ③仙台朗読祭、詩の文学館などリーディングイベント:広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読してもらう仙台朗読祭や、地元詩人によるポエトリーディングなど、文学作品の朗読イベント。 ④文芸講演会:活躍中の作家による講演会や対談。仙台ゆかりの作家をはじめ、全国規模で活躍する作家による講演なども開催する。					
73	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	0	0	
	県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行っていく。また、小中学生に向けた常設展示の内容を学ぶためのワークシートを作成する。					
74	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
	市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行う。					
75	情報誌の発行	通年	—	1,256	1,256	市補助金 1,256
	文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続する。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図る。					
76	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
	絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図っていく。「こどもの本の部屋」を会場とした、近隣児童館との連携による乳幼児向け事業も実施する。					
77	文学館友の会・土井晩翠顕彰会の支援	通年	—	0	0	
	両会の事務局を担当。友の会は文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施。顕彰会は晩翠わかば賞・晩翠おば賞をはじめ、晩翠忌記念イベントなどの事業を実施する。					
78	出版物等の販売	通年	—	255	255	市補助金 41 刊行物販売 214
	小池光短歌講座の記録集を制作・販売する。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売する。					

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位:千円)

①せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業

79	対話の可能性 (1)対話のための発信事業	通年	メディアテーク	17,000	17,000	市補助金 7,500 入場料 1,500 助成金 8,000
市民力育成を目指し、広い対話を誘発するメディアテークからの投げかけとなる事業。						
<p>①展覧会「畏敬のかたち」(仮称):平成25年度から継続の「対話の可能性」事業のまとめの展覧会として、スタジオ活動の成果の一つである民話を題材に、美術やマンガなどの現代のさまざまなアーティストが造形的な表現を行なう。かたちを持たない民話という物語を、さまざまな手法とメディアによって造形することで、民話の中に生きる豊かなエッセンスを現在の社会のなかに形象する。また、本企画を通じ、現代アートが地域文化の本質を現代に伝えるメディアとなり得ることを広く市民とともに確認する。</p> <p>②スタジオ情報発信:年毎に設定するテーマに基づいた記録、随筆、論考、写真などを掲載し、仙台/東北における芸術文化の現況を広く共有するツールとして、機関誌「ミルフィユ」を発行する。これにより、市民のみならず広く首都圏他からの関心を誘導する。また、「考えるテーブル」などの市民を交えたスタジオ協働事業や地域文化アーカイブなどの事業をフリーペーパーやラウンジ展示(わすれん!、民話、どこコレ、活版)等の機会を通じ、広く広報する。</p>						
80	対話の可能性 (2)対話の場づくり協働事業	通年	メディアテーク	3,000	3,000	市補助金 2,000 助成金 1,000
市民間の交流、対話を促進するための対話の場/機会/メディアを用意する。						
<p>①スタジオ協働事業:「考えるテーブル」など、誰もが参加可能な対話型公開会議などを中心に、市民力の醸成、市民の主体的な社会参画が文化面から活性していくことを目指す。その他、さまざまなアートやメディアにまつわる文化活動との協働を行う。</p> <p>②地域文化アーカイブ:市民の自発的な地域文化財のデジタル化、保存、活用を促す取り組み。成果物は、メディアテークに保存され、ライブラリーへの配架、ウェブサイト等での発信など、広く市民に活用される財となる。また、それらの財をもとにした催事を行うことで、仙台市域のさまざまな文化活動へのより広く深い市民の関心を促す。これらの取り組みは、国内に例のない地域文化にまつわる映像の蓄積＝デジタル・アーカイブを形成し、将来においての財産となるよう構築される。(平成26年度「地域文化デジタルイズ」より事業名改め)</p>						
81	発信・施設活用推進	通年	メディアテーク	5,672	5,672	市補助金 4,972 刊行物等販売 500 助成金 200
館長を軸とした発信事業と併せて、各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開していく。						
<p>①館長発信事業:発信力ある館長を軸に、著名なゲストとのトーク等の開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、市民図書館を含むメディアテーク全体の新しい姿を示していく。その際、館長の動向を伝える情報発信なども行い、より広い理解へと努める。</p> <p>②地域文化連携・施設活用推進:各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示、上映会など多様な活用事例を示していく。さらに、市民図書館とのフェスティバルを開催し、さまざまな活動団体を顕在化するとともにより広い関心を集め、交流を促進する機会を作る。また、取り組みが広く市民に届くよう定期的な広報や啓発、情報発信に努め、次年度事業にまつわる調査を通じ、時勢に応じた事業に取り組んでいく。</p> <p>③バリアフリー・デザイン事業:目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳や音声解説、字幕制作等のデータ作成を市民協働で行う。成果物を活用した上映会等の開催、や作成に関わる人材の育成、技術向上に向けた一連の取り組み。</p>						

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位;千円)

(1)仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

82	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	64,198	64,198	市指定管理料 64,198
	歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行う。					
83	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	394	394	市指定管理料 394
	「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介する。また、震災関連展示を行う。					

①特別展・企画展及び関連事業

84	特別展「近代交通と仙台」及び関連事業	11/14～4/17	歴史民俗資料館	2,149	2,149	市指定管理料 2,149
	明治維新以降の交通機関の革新で登場した人力車や馬車、蒸気船、鉄道などの新しい交通用具によって変化しはじめた生業と仙台の街について紹介する。特に鉄道の開設と仙台駅の開業に注目し、仙台の街並みの変容から高速鉄道網が地域に与えた影響について考える。					
85	企画展「学都仙台と杜の都～仙台文化を訪ねて～」及び関連事業	6/27～11/3	歴史民俗資料館	1,701	1,701	市指定管理料 1,701
	戦前の仙台は軍都・学都・杜の都と称された。戦後・高度経済成長期には「杜の都」の都市イメージを展開させるとともに、現在では音楽や演劇活動に象徴される「楽都」「劇都」の都市イメージへと発展させてきたが、当企画展では、現代の仙台文化の源流のひとつである学都仙台と杜の都仙台について、教科書と教育資料、そして仙台の街並の移り変わりに関する資料を通して振り返り、仙台文化を展望する。					
86	企画展「暮らしの中のリサイクル～明治・大正・昭和～」及び関連事業	4/25～6/14	歴史民俗資料館	259	259	市指定管理料 259
	日本人は高度経済成長によって、大量生産、使い捨ての生活をしてきたが、今日ではそれを見直し、資源の節約や環境汚染防止などのために不用品、廃棄物などを再利用するリサイクルが進められている。展示では、かつて暮らしの中でどのように物を大切に再利用してきたのか、人々の知恵と工夫を紹介する。					
87	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	96	96	市指定管理料 96
	<p>①資料館サポーター講座(6月～3月):「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで上・下半期の2回コースで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことをめざす。</p> <p>②子ども講座(8月、3月):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催する。</p> <p>③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/25・26・29、5/2～6):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験する。</p> <p>④クイズラリー(夏休み・冬休み):クイズやパズル形式での自主見学学習。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8月、10月、2月):展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催する。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/17):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開する。</p>					
88	資料館だより等の発行	通年	歴史民俗資料館	168	168	市指定管理料 168
	資料館だよりの制作や、資料館の活動チラシを作成し、学校、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学習に資する。					
89	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	1,753	1,753	市指定管理料 1,753
	資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集」をまとめ刊行する。					
90	調査報告書の発行	通年	歴史民俗資料館	801	801	市指定管理料 801
	仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行する。					

91	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	市指定管理料 0
<p>学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習の際、年間100校を超える市内外の学校が見学を訪れ、石臼挽きなどを体験をする。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施する。</p>						

## (2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

92	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	79,609	79,609	市指定管理料 79,609
<p>旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理する。</p>						
93	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	13,344	13,344	市指定管理料 13,344
<p>地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の屋外展示を総合的に行う。</p>						

### ①特別展・企画展

94	特別企画展「旧石器時代の生活」(仮)	7/17~9/23	富沢遺跡保存館	2,329	2,329	市指定管理料 2,329
<p>旧石器時代は遊動生活による狩猟採集社会だったと考えられている。しかし、約25,000年続く日本の後期旧石器時代には、さまざまな規模や性格をもった遺跡が混在しており、単純な図式で把握することが難しくなっている。特に、約30,000年前を境とした前半期と後半期では、遺跡の形成過程が大きく異なっており、何かしらの社会的なインパクトがあったと考えられる。 当企画展では、旧石器時代の居住形態や生活様式の実像に迫るべく、環状ブロックなどの遺構に関する研究成果を紹介する。</p>						
95	企画展「仙台の遺跡④ 大野田・西多賀あたりの古墳」	4/10~6/21	富沢遺跡保存館	61	61	市指定管理料 61
<p>近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。当企画展では、仙台市内から出土した身近な資料をシリーズで紹介するもので、今回は大野田・西多賀周辺の古墳について取り上げ、発掘調査で出土した資料とともに紹介する。</p>						
96	企画展「やきもの史-資源利用」(仮)	10/10~12/21	富沢遺跡保存館	102	102	市指定管理料 102
<p>縄文時代から近世にかけての人間生活で用いられた土器などのやきもの歴史を紹介し、焼成技術の発達など窯業とそれに伴う自然利用の関連について、仙台市内および近隣の遺跡・遺物を紹介しながら市民の理解を深める。</p>						
97	企画展「地底の森ミュージアム2015」	1/19~3/13	富沢遺跡保存館	28	28	市指定管理料 28
<p>富沢遺跡保存館で行われた当年度事業と、ボランティア会、友の会の活動等を紹介するとともに、フォトコンテストの写真展示を行う。</p>						
98	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	1,190	1,190	市指定管理料 1,190
<p>①考古学講座(11/21、1/16):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する。各回公募による60名の一般市民を対象とし2回シリーズで開催する。 ②体験学習(通年):体験を通して古代人の技術を学ぶ。石器づくり体験教室や石器の使用体験を実施する(親子体験教室:1回、一般対象教室:1回)。また、ゴールデンウィークや特別企画展期間中の土・日・祝日、小中学校の秋休み期間中に手づくり工房体験学習として石器づくりや木の実などを使った人形づくりを実施する。 ③たのしい地底の森教室(通年):当館学芸員が体験教室や読み聞かせ、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物などの説明会をする。原則として毎月2回日曜日に開催する。 ④地底の森フェスタ2015(10/12):屋外を会場とし自由参加の形態で開催する。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を行う。ボランティアとともに企画実施する。 ⑤利用学習事業(通年):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施する。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、実践集録を作成・Web公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行う。 ⑥市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による15名を対象に、1年間にわたり週1回館学芸員が支援する活動日を設け、その成果を活動報告書にまとめる。 ⑦ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行う。 ⑧地底の森ミュージアム友の会活動の支援(通年):博物館活動の啓発を目的とする友の会活動を、活動内容への助言や講座への講師派遣などを通して支援する。 ⑨地域や大学との連携:地域のイベントである太白区民まつりなどに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行うなど、地域や大学との連携を強化する。</p>						



99	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	190	190	市指定管理料 190
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の館職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、今後の博物館運営に役立てる。					
100	ポスター・図録等の印刷・刊行	通年	富沢遺跡保存館	1,401	1,401	市指定管理料 1,401
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成する。なお、特別企画展については展示図録を刊行する。					
101	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用する。					
102	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	345	345	市指定管理料 345
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行う。併せて保存処理検討会を開催する。					
103	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	188	188	市指定管理料 188
	平成28年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行う。					
<b>②地域との連携事業</b>						
104	運営懇談会	7月、2月	富沢遺跡保存館	0	0	市指定管理料 0
	富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るため当館の活動を紹介したり、当館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行う機会として、近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等の方々に出席いただき懇談会を開催する。また、学校や地域との連携事業を模索する場とする。					

### (3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

105	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	42,925	42,925	市指定管理料 42,925
	縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理する。					
106	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	15,836	15,836	市指定管理料 15,836
	施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行う。					
107	企画展「縄文人の暮らし」	通年	縄文の森広場	45	45	市指定管理料 45
	仙台市域の遺跡を中心に、発掘調査から明らかとなった縄文時代の人々の暮らしについて、最新の成果を含めて紹介する。3か月毎に主たる紹介遺跡を変えて企画展示を行う。以下の内容を予定。 ①(仮称)「縄文人の暮らしーすまいと生活」4/17～6/28 ②(仮称)「縄文人の暮らしー道具と生活」7/17～9/23 ③(仮称)「縄文人の暮らしー食べ物と生活」10/16～12/20 ④(仮称)「縄文人の暮らしー祭りと生活」1/22～3/21					
108	縄文まつり・縄文コンサート	5/5、7/18、 11/1、2/6・13	縄文の森広場	962	962	市指定管理料 962
	季節ごとに開催する自由参加イベント。春・秋には各種縄文体験や当館にちなんだゲームなどのイベントを主体とした「縄文まつり」、夏・冬には縄文時代や古代に関連する演奏、地元住民による演奏を主体とした「縄文コンサート」として実施する。					
109	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	2,216	2,216	市指定管理料 2,216
	①団体予約: 子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験。 ②随時体験: 来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供。 ③体験講座: 「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」など、各種体験教室。 ④特別イベント: 春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等。					
110	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	284	284	市指定管理料 284
	各種体験活動におけるボランティアスタッフを対象とした、展示についてのより分かりやすい説明や体験活動の補助のための研修事業。当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行う。					

111	縄文講座	12月～2月	縄文の森広場	181	181	市指定管理料 181
<p>縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回公募100名対象。以下の内容を予定。  ①(仮称)「縄文人の一日」(12/20)  ②(仮称)「縄文人の食」(1/17)  ③(仮称)「縄文人の「こころ」」(2/21)</p>						
<b>①学校との連携事業</b>						
112	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,537	2,537	市指定管理料 2,537
<p>小・中学校教育での当館利用推進を目的として、授業の実践校(仙台市内小・中学校対象)に交通費の補助を行う。学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行う。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行う。</p>						
113	学校教育との連携	8月、10月～12月	縄文の森広場	7	7	市指定管理料 7
<p>学校教育との連携を促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員利用研修会を実施。10～11月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施。10～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れる。</p>						
<b>②地域との連携事業</b>						
114	運営懇談会	通年	縄文の森広場	5	5	市指定管理料 5
<p>縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とする。また、地域と連携した今後の事業を模索する場とする。</p>						
115	縄文の森広場子ども友の会の育成	通年	縄文の森広場	7	7	市指定管理料 7
<p>縄文畑に展示の一環として育てているソバ・アワ・キビ・ヒエの播種から調理までを体験するなど、子どもたちの活動としてその利活用を図る。また、縄文時代に関する生活体験などを行う。</p>						
<b>③調査研究事業</b>						
116	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
<p>各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組む。</p>						
117	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	120	120	市指定管理料 120
<p>公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。今年度は監修者を招聘し、復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討する。また、土葺き竪穴住居の上屋構造に関する調査などを行う。</p>						
118	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
<p>当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施する。</p>						
119	平成28年度ミニ企画展「(仮称)縄文人の精神文化」資料調査	通年	縄文の森広場	3	3	市指定管理料 3
<p>平成28年度に予定している、縄文人の精神文化をテーマとした企画展の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施する。</p>						
120	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
<p>仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行う。また、事業活動の充実を図るため、関連資料の収集を行う。</p>						

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

121	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	176,500	176,500	市指定管理料 176,500
	文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行う。					収益事業を含む
122	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	
	明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介する。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行う。					
<b>①特別展・企画展</b>						
123	特別展「北杜夫—どくとるマンボウの生涯」	4/25～6/28	仙台文学館	4,273	4,273	市指定管理料 4,273
	平成23(2011)年に亡くなった小説家・北杜夫は、昭和23年東北大学医学部に入学し、約5年間を仙台で過ごした。在学中に初めて投稿した小説が雑誌に掲載され、ペンネームも「杜の都・仙台」にちなんで名乗るなど、仙台との縁も深く、小説にも仙台の体験を書き記している。純文学から大衆小説、そして父・斎藤茂吉の随想など、幅広いジャンルで読者の支持を得た作家の生涯とその作品の味わいを、関係者をはじめ世田谷文学館、斎藤茂吉記念館、日本近代文学館などに協力を仰ぎ、豊富な自筆資料からたどる。					
124	夏休み企画「こども文学館えほんのひろば」	7/17～8/23	仙台文学館	2,005	2,005	市指定管理料2,005
	夏休み恒例の企画として、絵本を自由に読める「絵本の部屋」や、市内で活動するグループによるお話し会・読み聞かせワークショップ等を開催する。また、3階の企画展示室では、絵本作家・馬場のぼるの「11ぴきのネコ」をはじめとする絵本の原画展を開催する。子どもの感受性を育むとともに、大人が読んで楽しい、物語と想像の絵本の世界を楽しんでもらう。					
125	特別展「竹久夢二の世界(仮称)」	9/12～11/8	仙台文学館	3,982	3,982	市指定管理料3,982
	明治末期から大正、昭和にかけて、美人画や木版画、またグラフィックデザイナーとして活躍し、現在も熱烈なファンが多い竹久夢二の作品を幅広く紹介する。夢二は仙台の童謡専門雑誌「おてんとさん」にも作品を寄せるなど、仙台との縁も深い。展示では、こうした仙台と夢二の交流についても、仙台文学館所蔵の資料などで紹介する。					
126	企画展「仙台の出版文化」	11/21～1/24	仙台文学館	592	592	市指定管理料 592
	開館以来これまで収集してきた、地元の出版社が刊行した書籍・雑誌を展示紹介し、地元の出版業界の足跡をたどる。既に廃刊された雑誌や、今はなき出版社の出版物を手にとれる形で展示することにより、地元の出版社が仙台の文化向上に果たした功績を改めて振り返る。また現在活動している地元の出版社と連携して対談やトークイベント等の関連事業も展開する。					
127	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/10～2/11	仙台文学館	284	284	市指定管理料 284
	文学館あての年賀状を広く一般から募集する。文学館の住人でもある作家宛の年賀状やゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示する。					
128	企画展「井上ひさし資料特集展vol.5」	2/6～4/10	仙台文学館	1,947	1,947	市指定管理料1,947
	2011年に寄贈された、初代館長・井上ひさしの肉筆資料から時宜にかなった作品の資料を選び展示する。膨大な創作メモやプロットから、作品の創作過程をたどる。また川西町の遅筆堂文庫の協力を得て、作品執筆にあたって使用した書籍、参考資料なども紹介する。					
129	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	9,564	9,564	市指定管理料 9,564
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行う。収集した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行う。また、必要に応じて資料の修復や複製の制作を行う。					
130	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	614	614	市指定管理料614
	平成28年春の特別展の準備を進める。また、仙台で活躍する文学者や文学に描かれた仙台についての調査を進め、随時紹介していく。					

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					備考

(単位;千円)

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

131	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	357,589	357,589	市指定管理料 357,589
<p>平成24年度から引き続き5年間の指定管理を受け、その4年目となる当年度は次のとおり施設運営を行う。</p> <p>(1)利用者が安心して利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化する。</p> <p>(2)利用者と積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスをを行い利用者の増加を目指す。</p> <p>(3)施設利用に関すること及び芸術文化に関する情報を広く提供するなど広報を強化する。</p> <p>(4)市民の文化活動の拠点施設であることをさらに認識し、施設の活性化及び利用促進につながる施設紹介事業をはじめとした各種事業を行う。</p> <p>(5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続して行う。</p> <p>(6)震災を教訓にしたより実践的に対処できる防災体制を構築し、環境に配慮した各種施策に努める。</p> <p>(7)大規模改修に向けての設計や設備更新作業のサポートを、施設設置者とともにを行う。</p> <p>(8)次年度開催予定の国際音楽コンクールに向けた、施設の整備等に努める。</p>						収益事業を含む

(2)仙台市泉文化創造センター管理運営事業

132	仙台市泉文化創造センター(イズミティ21)管理運営	通年	イズミティ21	130,197	130,197	市指定管理料 130,197
<p>「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として平成27年度から5年間の指定管理を受け、市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を目指していく。施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させる。適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なっていく。また、施設の安全維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取組みを引き続き推進していく。一方、施設を活性化させる事業として、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント、ホール見学会及びボランティアによるピアノ弾き込み事業、市民ギャラリー等での展示、新春いずみ寄席を行う。</p>						収益事業を含む

(3)せんだいメディアテーク管理運営事業

133	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	591,897	591,897	市指定管理料 591,897
<p>人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特徴を最大限に発揮しながら、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、計画保全の実施に向けた検討を行っていく。</p> <p>メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援も行う。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行う。</p> <p>事業としては、震災後着手した「考えるテーブル」の事業を引き続き発展させるとともに、市民参加型事業を積極的に進める。</p> <p>また、博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り、次世代の育成に取り組む。</p>						収益事業を含む
134	せんだいメディアテークライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	10,169	10,169	市指定管理料 10,169
<p>映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリー、における映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供する。</p> <p>また、せんだいメディアテークの事業、および「3月11日をわすれないためにセンター」を拠点として集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供する。</p>						